

NPW のカンピロバクターに対する殺菌効果試験

—試験報告書—

試験番号：197090N-1

株式会社 食環境衛生研究所

〒379-2107

群馬県前橋市荒口町 561-21

Tel027-230-3411

Fax027-230-3412

1. 表題

NPW のカンピロバクターに対する殺菌効果試験

2. 試験番号

No.197090N-1

3. 目的

NPW（試験液）とカンピロバクターを反応させた時の殺菌効果を確認するために実施した。

4. 試験管理組織

試験依頼者の名称及び所在地

名称 ニイヌマ株式会社

所在地 〒986-0853 宮城県石巻市門脇字元浦屋敷 2-20

実施機関の名称、所在地及びその長の氏名

名称 株式会社 食環境衛生研究所

所在地 群馬県前橋市荒口町 561-21

氏名 代表取締役 久保 一弘

試験実施責任者の氏名

松本 彰平

試験担当者の氏名

近藤 実紀

5. 試験スケジュール

試験受託日 2019年6月28日

試験開始日 2019年7月11日

試験終了日 2019年7月31日

6. 試験資材

試験液 NPW

対照資材として滅菌生理食塩水を用いた。

7. 供試微生物

カンピロバクター：Campylobacter jejuni ATCC29428

上記微生物を mCCDA 培地にて前培養し、滅菌生理食塩水にて約 10^8 cfu/mL の濃度に調製したものを試験菌液とした。

8. 区の設定

区	処置	感作時間
試験区	試験資材 10mL に試験菌液 0.1mL 添加	試験開始後 (0 分)、30 分
対照区	対照資材 10mL に試験菌液 0.1mL 添加	試験開始後 0 分、30 分

() 内は対照区の数値を使用する。

9. 試験方法

「JIS Z 2801 (抗菌加工製品-抗菌性試験方法・殺菌効果)」及び石炭酸係数法を参考として実施した。

10. 試験手順

①微生物検査方法 (試験液の細菌数測定)

試験液を、SCDLP 培地で 10 倍段階希釈し、希釈液を mCCDA 寒天培地で培養した。培養は、微好気条件で 35°C 72 時間行い、培養後に発育した集落を計数して当該菌数とした。

②試験方法

試験資材及び対照資材を滅菌試験管に入れ、資材 10mL に対し試験菌液を 0.1mL 添加してよく混合した。

試験設定に従い、混合直後及び室温で一定時間反応させた後、残存する生菌数を微生物検査方法に従い測定した。

11. 試験結果

試験結果を下表1に示した。

対照区については試験開始時から終了時までほぼ同数となり、2000000～1800000cfu/mLの範囲であった。

試験区では、試験開始30分後には<100未満：検出せず（99.99%以上減少）となった。

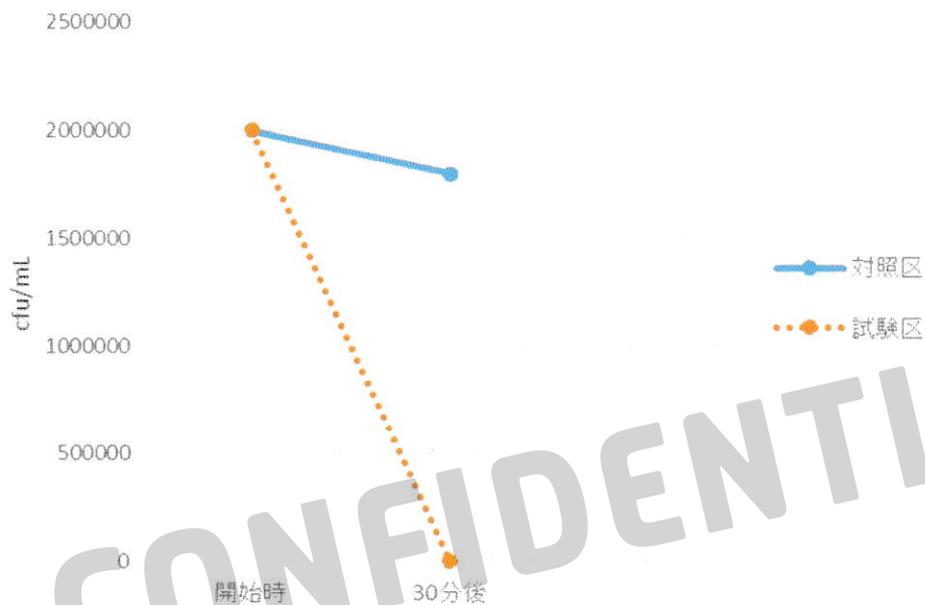
表1 カンピロバクター試験結果

区	資材	生菌数 (cfu/mL) ※	
		開始時	30分後
対照区	生理食塩水	2000000	1800000
試験区	試験液		<100

※3 試行の平均値

<100：検出せず

図1 カンピロバクター試験結果



12. 考察

試験の結果、試験液のカンピロバクターに対する殺菌効果が確認され、殺菌効果が得られたものと判定されました。

CONFIDENTIAL

CONFIDENTIAL